

独自の言語や文化を有する先住民族、アイヌ。

美しいアイヌ文様、歌、踊り…

その世界観は、日本の多様性を表す。



アイヌ民族は日本列島北部周辺、とりわけ北海道の先住民族です。
独自言語のアイヌ語をはじめ、万物に魂が宿るとされている宗教観、
独特の文様による刺繍、木彫り等の工芸など、固有の文化を発展させてきました。
祭りや家庭での行事などに踊られる「アイヌ古式舞踊」は、
国の重要無形民俗文化財に指定され、さらにユネスコ無形文化遺産にも登録されています。

いぶり文化遺産 ～アイヌ文化～

■舞踊■

儀式や親しい人たちが集まった時などに踊っていました。
その踊りを「アイヌ古式舞踊」と言い、国の「重要無形民俗文化財」に指定され、
さらに「ユネスコ無形文化遺産」にも登録されています。

■言葉■

登別（アイヌ語：ヌプルベツ ～ 水の色濃い川）や
白老（アイヌ語：シラウオイ ～ 虻（あぶ）の多いところ）など、
北海道内には、多くのアイヌ語を語源とした地名があります。
また、みなさんの身近なところにも、アイヌ語はあふれています。

水の色濃い川…そして登別。
それって、温泉のことかな？



■食べ物■

野生の動物や植物を一度に取り尽くさないようにし、「煮る」「焼く」「炊く」という方法で調理していました。チェプオハウ（サケを入れた汁）は代表的な料理の一つです。

■着物■

オヒョウニレやシナノキなどの樹皮や、サケ・マスの魚皮を使用した衣服などを着ていました。

■楽器■

代表的なものとして、ネマガリダケなどを材料とした口琴「ムックリ」や、主にサハリンアイヌが使用した琴状の「トンコリ」があります。

詳しくは…

公益財団法人アイヌ民族文化財団



ウポポイ（民族共生象徴空間）に行ってみよう！

2020年7月12日、白老町ポロト湖畔に誕生した「ウポポイ（民族共生象徴空間）」は、先住民族であるアイヌの文化の復興と発展に関するナショナルセンターです。豊かな自然に囲まれた敷地内は、アイヌ文化が息づく憩いの場でもあります。アイヌを主題とした日本初の国立博物館「国立アイヌ民族博物館」や、体験型フィールドミュージアム「国立民族共生公園」などがあり、「体験交流ホール」では、アイヌ古式舞踊や楽器演奏など、アイヌの伝統芸能を体感することができます。



国立アイヌ民族博物館



ポロト湖畔



詳しくは…

ウポポイ (民族共生象徴空間)	<input type="button" value="🔍"/>
-----------------	----------------------------------

